

令和6年
2024年

2月

日	月	火	水	木	金	土
				1 先負 ひつじ	2 仏滅 さる	3 大安 とり
4 赤口 立春 いぬ	5 先勝 三りんぼう	6 友引 ね	7 先負 一粒万倍日 うし	8 仏滅 こと始め 針供養 とら	9 大安 う	10 先勝 たつ
11 友引 建国記念の日 紀元祭 み	12 先負 休日初午 一粒万倍日 うま	13 仏滅 ひつじ	14 大安 さる	15 赤口 とり	16 先勝 いぬ	17 友引 祈年祭 三りんぼう る
18 先負 ね	19 仏滅 雨水 一粒万倍日 うし	20 大安 とら	21 赤口 う	22 先勝 たつ	23 友引 天皇陛下御誕生日 天長祭 み	24 先負 二の午 一粒万倍日 うま
25 仏滅 ひつじ	26 大安 さる	27 赤口 とり	28 先勝 いぬ	29 友引 三りんぼう る		

如月

〔きさらぎ〕 令和6年2月

一年の中で最も寒さを感じる月で、
着る物をさらに増やす月という意味
で着更着とも書きます。

発行：北海道神社庁一區教化委員会

天道にまかせ程、世に安心なる事は御座なく候、
心安く暮らし候こそ、高天原と存じ候。
其原こそ、神はましますと存じ候
— 黒住宗忠書翰集 —

今月のことば

天道にまかせ程、世に安心なる事は御座なく候、
心安く暮らし候こそ、高天原と存じ候。
其原こそ、神はましますと存じ候
— 黒住宗忠書翰集 —

黒住宗忠の名言の一つに「吾がなすは、吾がなす
にあらず、神、吾をしてなさしむるなり」というの
がある。自分の行動は自分一人の行動ではない、全
ては、自分を在らしめた神が私を動かしているに他
ならない、とする思想である。この自覚が信仰に生
きるものにとって大切である。

「天道にまかせ」とは、「神の御心の随に」生活す
ることが、神の世界に生きる者の態度である。そう
なれば、高天原に生きている—即ち、神の御心の随
に生きていることになる。

この黒住宗忠の言葉は、信仰とは我意を張ること
ではない。全てを神に任せ切って生活することを、
端的に教えられたものである。

(神道百言 一般財団法人神道文化会編より抜粋)

季節のまつり

節分

二月三日
家族そろって「鬼は外」

節分は、季節が移り変わるときとい
う意味で、立春・立夏・立秋・立冬の
前日を言いましたが、特に気候が冬か
ら春に移る時期であることから、立春
の前日だけを呼ぶようになりました。
そして、季節の変わり目には災いや疫
病が増えるため、厄や邪気を鬼に見立
てて追い払う「追儺」の行事を取り入
れて、豆まきを行います。
す。また豆を年の数
だけ食べるのは、年取
りの行事で、新しい年
を健康（まめ）に暮ら
せすように願いを込
めて食べます。



恵方

恵方巻き
今年の恵方は「東北東」

恵方とはその年の干支によって定め
られた最も良いとされる方角のことで、
今年の恵方は「東北東」です。その方
向に歳徳神がいるといわれ、節分にそ
の恵方に向かって巻き寿司を食べるこ
とから「恵方巻き」や「恵方寿司」と
呼ばれるようになりました。恵方巻き
は目を閉じて願い事を思い浮かべなが
ら、恵方に向かって無言で一本丸ご
の海苔巻きを丸かぶりします。巻き寿
司を切らずに食べるのは「縁を切らな
い」という意味が込められており、七
福神にちなんで七種類の具材が入れら
れ、「福を巻き込む」という願いも込
められています。

二十四節気

【立春りつしゅん】… 四日

太陽黄経三百十五度のときにあたり正節で、
節分の翌日になります。暦の上ではこの日か
ら春ですが、まだ寒さは厳しい候です。

【雨水うすい】… 十九日

このころ雨水ぬるみ、草木が発芽しはじめ
ます。

六曜・選日

【六曜】… 諸事急ぐことによし、午後よりわるし
【先勝】… 朝夕よし、正午わるし、葬式を忌む
【友引】… 諸事静かなることによし、午後大吉
【先負】… 諸事静かなることによし、午後大吉
【仏滅】… 万事凶、患えは長びくおそれあり
【大安】… 何事をするのにも吉日の日、大吉日
【赤口】… 諸事油断すべからず、正午のみ吉
【選日の吉凶】
【三りんぼう】… 三隣亡日、普請始め、棟上大凶日
【一粒万倍日】… 出資・投資・購入、新規事業開始
婚姻は吉、借りの、離別凶

七十二候《2月》

雨水

初候・土脈潤起（つちのしよつちうるおひこる）
次候・霧がたなびき始める
末候・草木が芽吹き始める

立春

初候・東風解凍（はるかぜこおひをたかく）
次候・黄鶯見聞（こうおうげんかんす）
末候・魚水上（うおこおりにのぼる）
割れた氷から魚が飛び出す

※七十二候とは二十四節気の各節気をさらに三つに分け、一年を七十二に分けたものをいいます。季節の移ろいを
気象や動植物の成長・行動などに託して表現したものです。

針供養 なぜ二月八日なのか？

二月八日には、日ごろ使っている
針を供養する行事があります。これ
は江戸時代から始まった行事で、こ
の日は針仕事を休んで、折れたり曲
がったりして使えなくなった針を、
こんにやくや豆腐、餅などに刺して、
川に流したり、神社やお寺に持ち寄
りました。

そして、日常生活に欠かせない針
に感謝をささげるとともに、針仕事
の上達と安全を祈ったのです。
この針供養は、地域によっては二
月八日と十二月八日の年二回行いま
すが、この二日は、こと始めとこと
納めという厄日に当たるために、針仕
事を休んで針の供養をするようにな
ったということです。

最近ではこの行事はあまり見られ
なくなりつつありますが、和裁を教える学
校などでは、現在でも針供養を行っ
ています。

けいてんあいじん
敬天愛人
天を敬い、人を愛すること



瑠璃唐草（るりからくさ）

参考文献
『日本人のしきたり』飯倉晴武（青春出版社）

「厄年」とは何歳ですか？

厄年は男性が二十五歳・四十二歳・六十一
歳で、女性が十九歳・三十三歳・三十七歳の
年回りを言います。その前後の年齢を「前
厄」「後厄」と言います。中でも、男性の四
十一歳は「死厄」、女性の三十三歳は「散々」
に通ずると言われることから「大厄」と言
われて、特に意識されることが多いようです。
神社では、正月から二月の節分にかけて
「厄祓」の祈禱を受ける人が多く見られま
す。厄年は近年、医学的に解明しようとの試
みもなされていますが、ホルモンの分泌量の
変化や、免疫力低下などにより体調不良を起
こすことがデータの多いようで、神社で
の厄祓の際に授与された神札を神棚におま
つりし、お守りを身近に持ち歩くなど、普段
より健康に留意し、生活することが大切で
しょう。

令和6年の厄年

男性		女性	
数え年	生年	数え年	生年
25歳	平成12年生	19歳	平成18年生
42歳	昭和58年生	33歳	平成4年生
		37歳	昭和63年生

還暦	
男女	生年
男女	61歳 昭和39年生

※各年齢の前後が前厄後厄となります。
※厄年には地域や神社により習慣の違いがあります。
詳しくは御社頭にてご確認ください。

いぬ
安産祈願 2月の戌の日
4日(日)・16日(金)
28日(木)

※戌の日以外でも安産祈願のご奉仕をして
おります。神社にお問い合わせください。

《11日 建国記念の日》
建国をしのび、国を愛する心を養
う日です。

《23日 天皇陛下御誕生日》
天皇陛下の御誕生日を祝う日です。

祝祭日には国旗を
掲げましょう